

2016年度 調査結果（2015年4月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

グローバル化が叫ばれる昨今、留学経験や語学力のある学生を採用する企業は増えている。今年から採用活動時期が大きく繰り下がることで、海外留学からの帰国者を採用する企業がますます増え、就職環境の改善に繋がるのではないかと注目が集まっている。ディスコでは、日本国外（海外）の大学で学んでいる（学んだ）、正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観やインターンシップ経験といった多岐にわたる項目に加え、新スケジュールが留学促進につながるかについての見解も尋ねた。

【主な調査内容】

- | | | |
|----------------------------|-------|------|
| 1. 現在の語学力（英語力） | | P 2 |
| 2. インターンシップの経験 | | P 3 |
| 3. 就職活動を開始した時期 | | P 4 |
| 4. 企業研究の情報源 | | P 5 |
| 5. 就職したい理由 | | P 5 |
| 6. 志望業界 | | P 6 |
| 7. 日本国外での勤務希望と就職したい企業の種類 | | P 7 |
| 8. 企業に評価してもらいたいことと企業が求める資質 | | P 8 |
| 9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点 | | P 9 |
| 10. ベンチャー企業への関心 | | P 10 |
| 11. 新スケジュールの認知度と留学促進への考え | | P 11 |
| 12. 留学をした感想 | | P 12 |

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2014年5月以降の者 5,742人
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2015年2月11日～28日

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	留学先地域・国	全体
正規留学	298	82	140	31	45	北米	337
交換・派遣留学	117	37	68	5	7	英国	53
語学留学	20	6	12	1	1	その他ヨーロッパ	27
その他	18	4	8	4	2	オセアニア	11
合計	453	129	228	41	55	アジア	16
						その他	9
						合計	453

※国内学生の調査結果は「日経就職ナビ2015 就職活動モニター調査」（2015年1月、2月、3月調査）より
 ※企業調査結果は、「採用活動に関する企業調査」（2014年2月調査）より

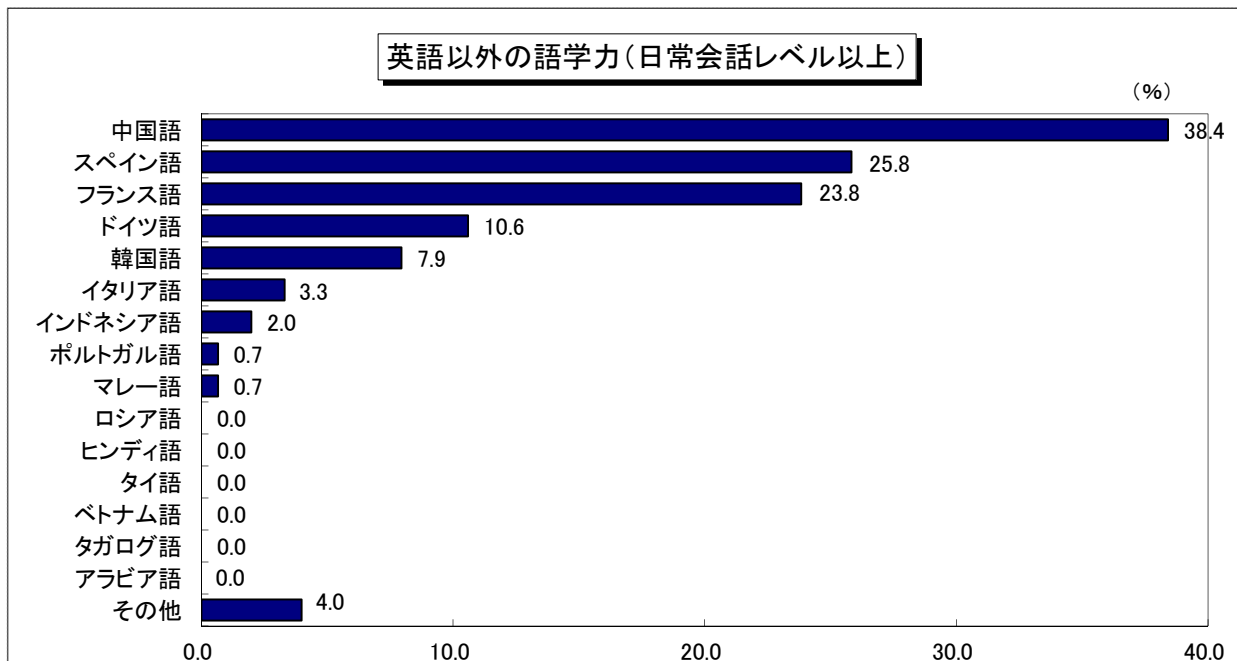
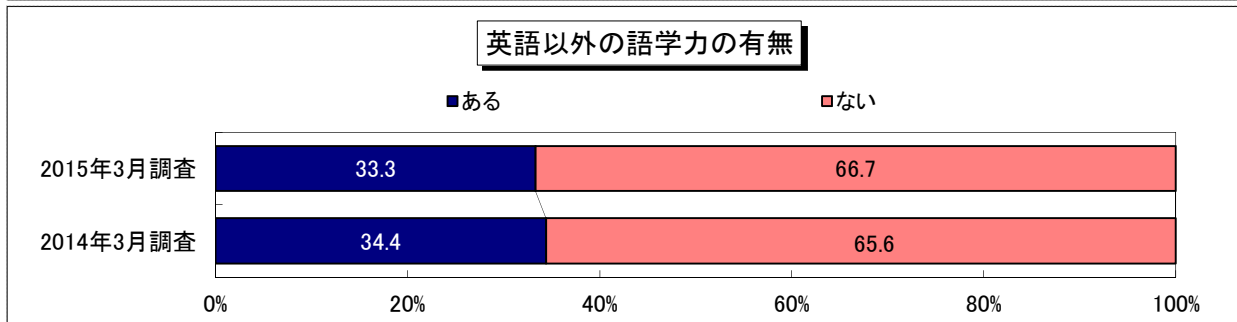
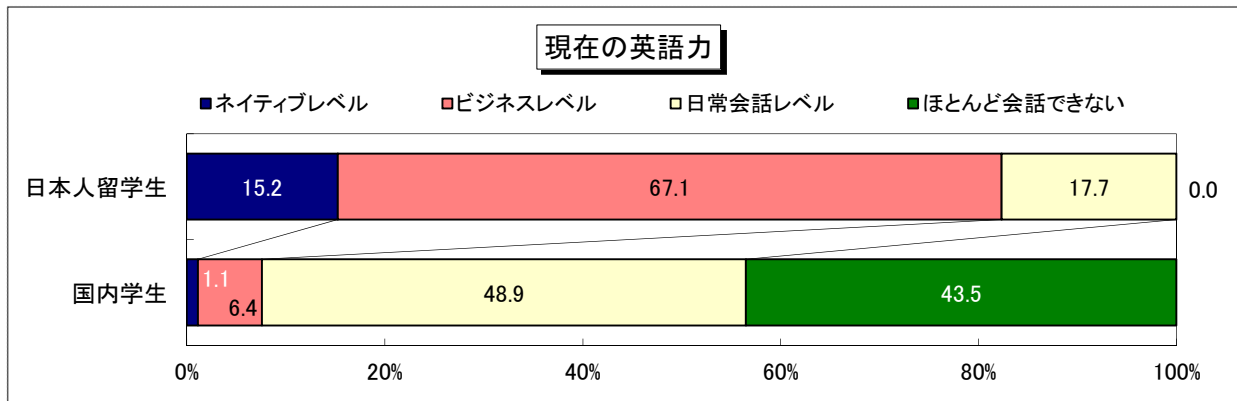
◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 現在の語学力（英語力）

海外留学生の現在の英語力について調べてみた。日本人留学生では英語力が「ネイティブレベル」との回答が15.2%、「ビジネスレベル」が67.1%とビジネスで英語を使うことができる学生が82.3%と8割を超えており、国内学生の英語力と比べると差が大きいことが分かった。留学生にビジネス以上の英語力を求める企業は7割程度であり（当社調査）、それをも上回っている。

また、日常会話レベルで使える第三言語をもつ割合は33.3%と3割強に上り、「中国語」が38.4%で最も多かった。全員を分母にすると12%を上回る留学生が中国語を話せる計算になり、留学生の語学習得力の底力がうかがえる。

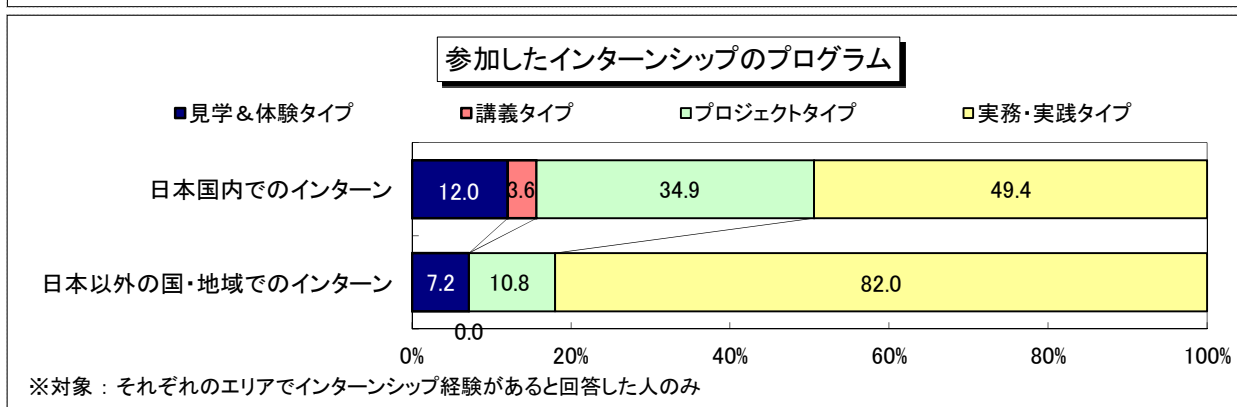
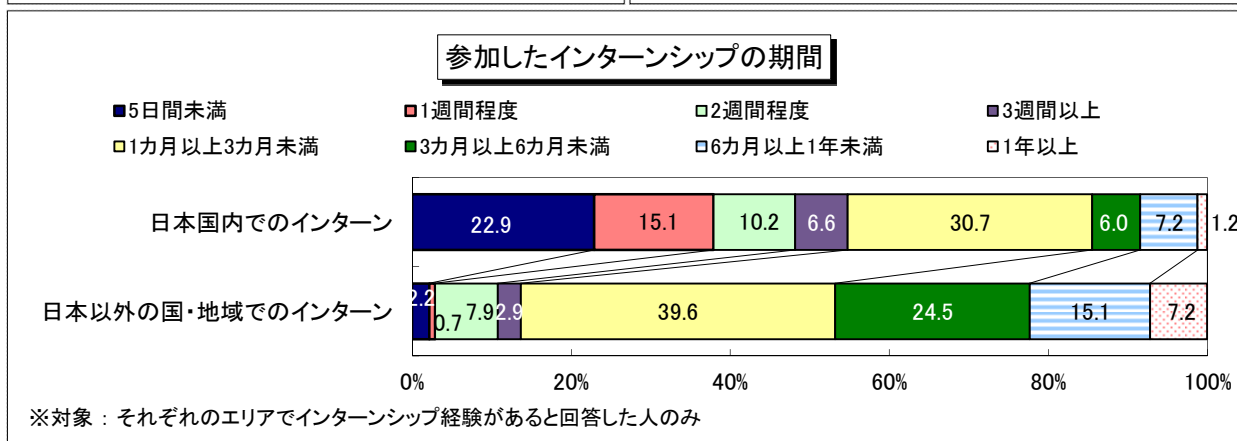
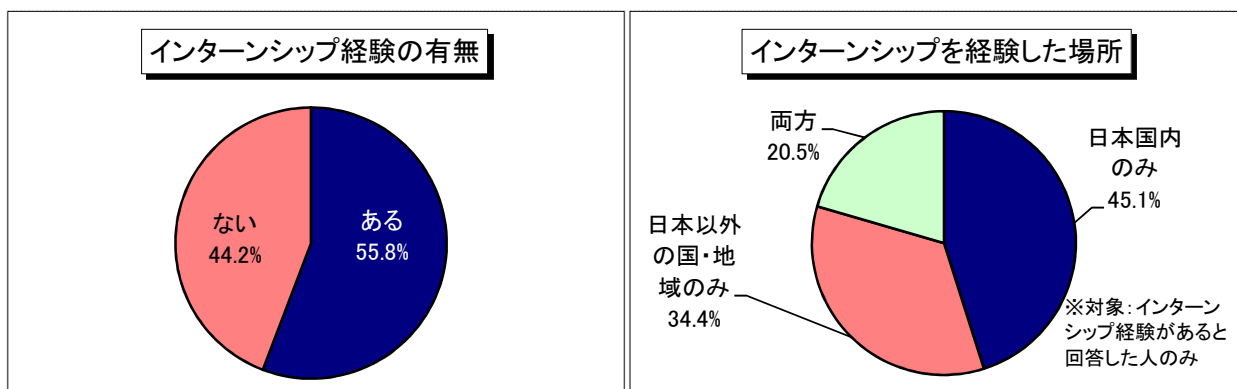


※英語以外に「日常会話レベル」以上話せる言語があると回答した人に聞いた

2. インターンシップの経験

インターンシップの経験を聞いたところ、55.8%の海外留学生が「経験あり」と回答した。経験者のうち、「日本国内のみで経験」した学生は45.1%、「日本以外の国・地域のみで経験」した学生は34.4%、その両方を経験した学生は20%程度だった。経験した地域でのプログラムの違いを尋ねたところ、インターンシップの期間では、日本国内では「2週間程度」までが48.2%と半数近くを占めたのに対し、日本以外では10.8%とプログラムの期間に大きな違いが出た。

参加したプログラムの形式についても、日本国内では「実務・実践タイプ」は49.4%と半数を割ったが、日本以外では82.0%と大半を占めており、プログラムの形式についても大きな相違が見られる。



(注)各プログラムの違い

- 見学&体験タイプ = 実際の職場で業務について説明を受け、仕事を少しだけ体験できる。
- 講義タイプ = 業界・企業・仕事についての講義のなかで、その企業の事業内容を理解し、「働く」について学ぶ。
- プロジェクトタイプ = 学生でチームを組み、その企業の事業にかかわる課題に取り組む。
- 実務・実践タイプ = 各部署に配属され、スタッフの一人として業務を任される。

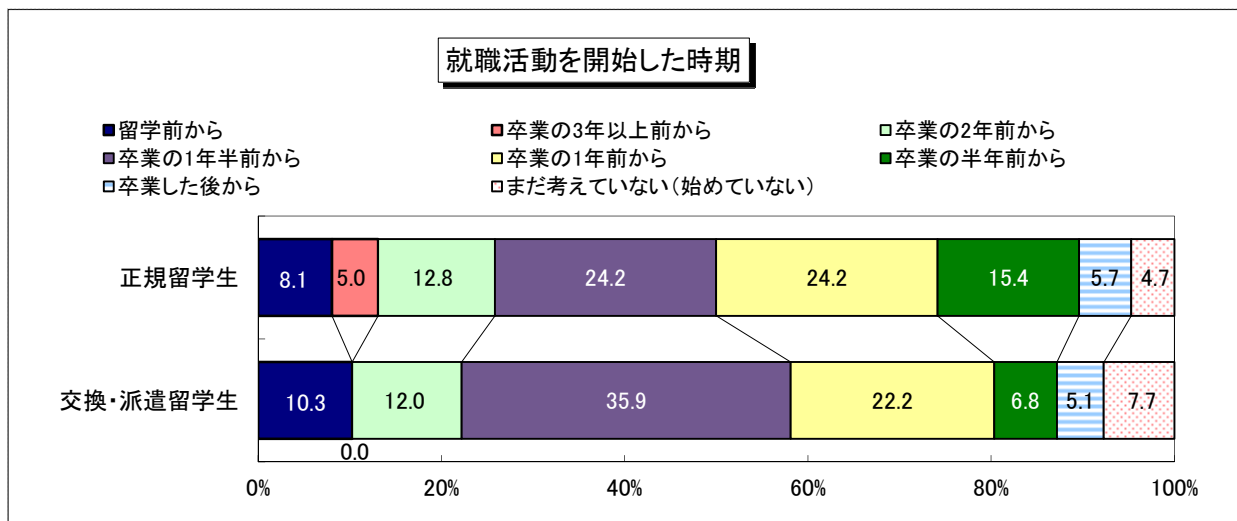
※複数のプログラムを組み合わせる場合には、主なもの1つを選択

■日本と海外のインターンシップの違い（*両方を経験した学生の意見）

- アメリカのインターンシップの方が数カ月単位と長期間働くことを求められていると思いました。
- 海外のインターンシップは実践を重視し、プロジェクト内容はほとんど自己管理。日本のインターンシップは講義から入り、仕事をしに行ったというより、外からのお客様として対応されたという印象。
- 海外のインターンシップは就職のためにする、というよりも、経験を積むためという印象があった。
- ワークスタイルが違う。海外の企業の方がよりフレンドリーで、職場が明るい。
- 海外インターン先の方が、社員間のコミュニケーションが（業務時間外も含めて）活発だと感じました。（インターン先=スペイン）
- 日本のよりも海外の方が実践的だった。一人一人の業務や役割がしっかりしていて、責任を感じる業務が多かった。
- 日本国内のインターンは短期のものが多く、実際にしっかりとした職務体験が出来るとは思えない。
- 日本のインターンは人事の方が実施内容を決めてくれているが、海外インターンは実施内容から自分で決めて行った。
- 海外は戦力として見てくれる。ワーキングスタイルが違う。
- 海外の方がスキルが身に付く。給与も良い。
- 海外のインターンシップでは、何も指示を出されなかった。こういうイベントの企画をしてください、と言われてただけで、どういう手順を踏むのか、何を作り上げたいのかは説明されず、裁量が大きかった。
- 日本のインターンシップの方が良くも悪くも supportive。要求水準を示されたうえでプロパーのスタッフに相談しようと思えばさせてもらえる（日米のそもそもの職務環境の違いからきているものと思われる）

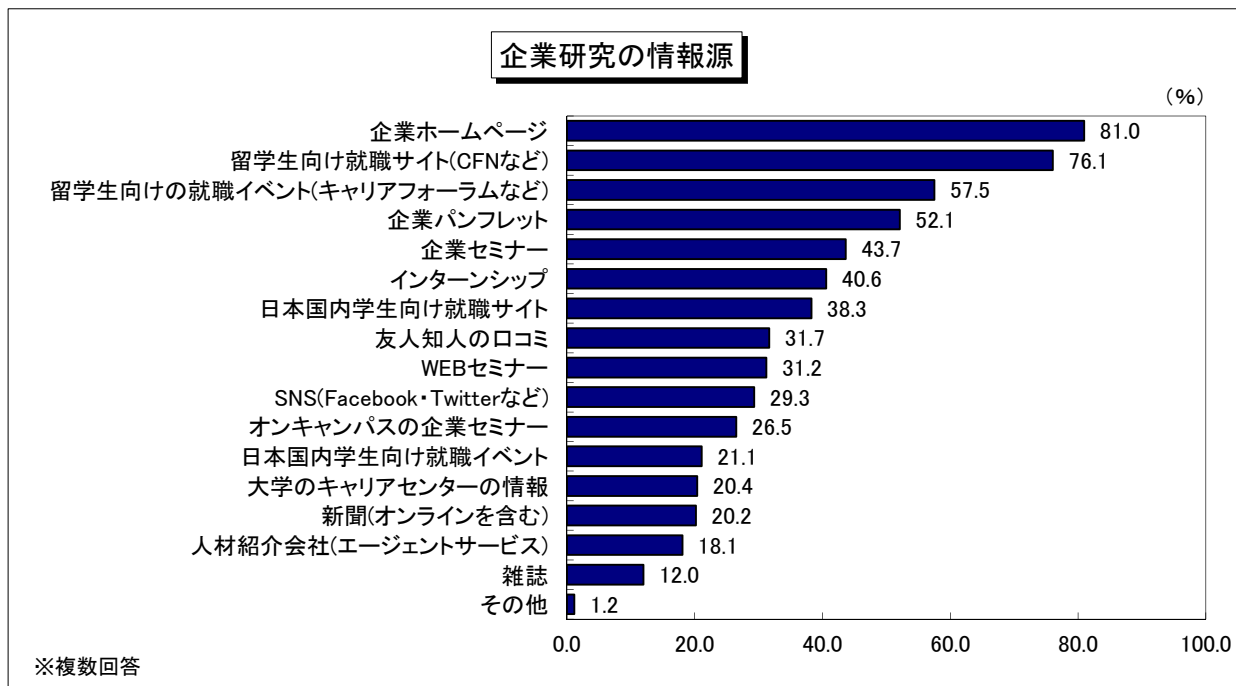
3. 就職活動を開始した時期

就職活動の開始時期について尋ねた。正規留学生の就職活動の開始時期は「卒業の1年半前から」と答えた人が24.2%、「卒業の1年前から」も24.2%であり、一方の交換・派遣留学生はそれぞれ35.9%、22.2%だった。正規留学生の方が比較的、卒業が近くなってから就職活動を開始している。



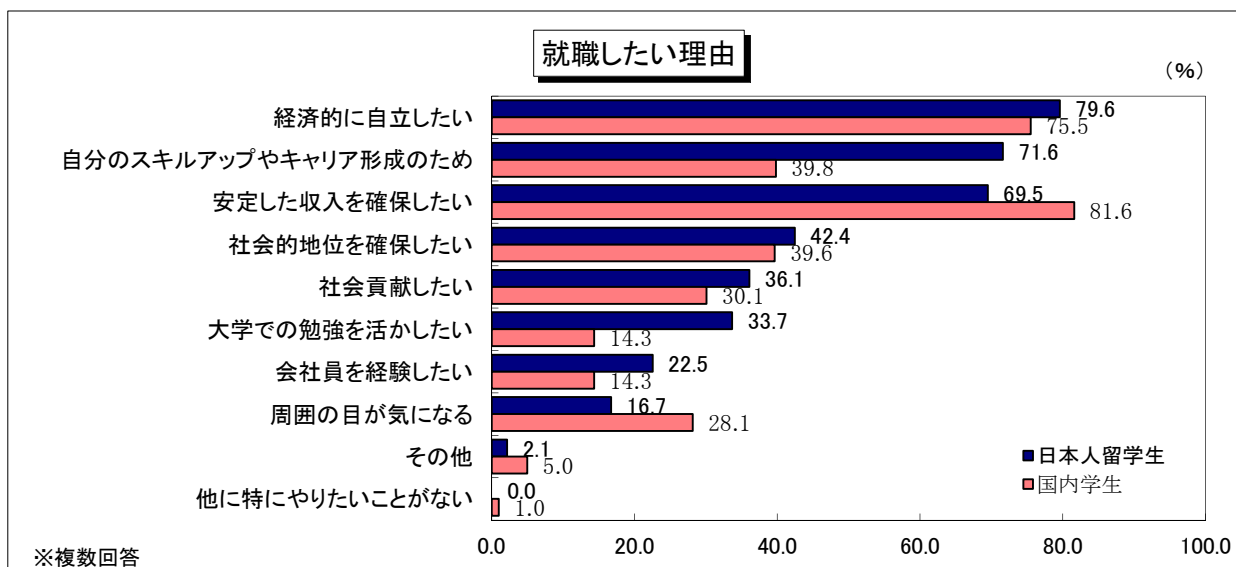
4. 企業研究の情報源

企業研究の情報源としては、「企業ホームページ」が 81.0%、「CFN などの留学生向け就職サイト」が 76.1%、「キャリアフォーラムなどの留学生向けの就職イベント」が 57.5%と続いた。留学生の多くが留学中から就職活動を開始していると回答したが、インターネットを活用した情報収集、企業研究が定着化している様子がわかる。



5. 就職したい理由

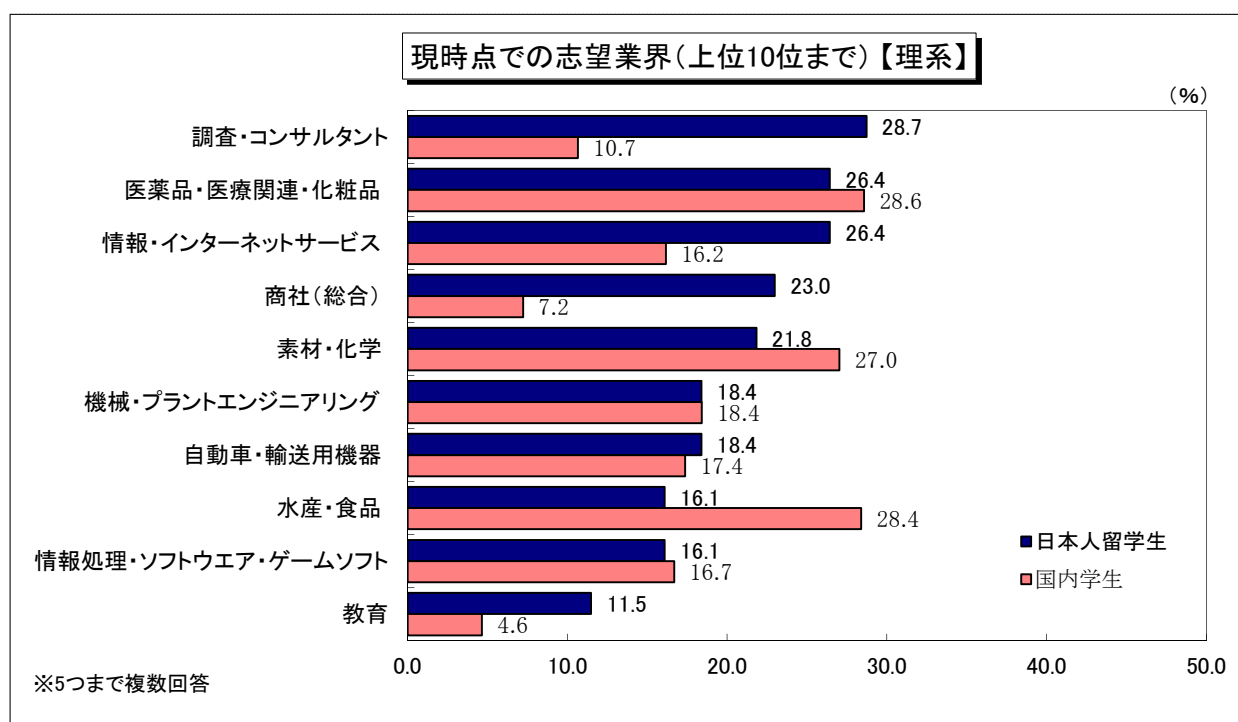
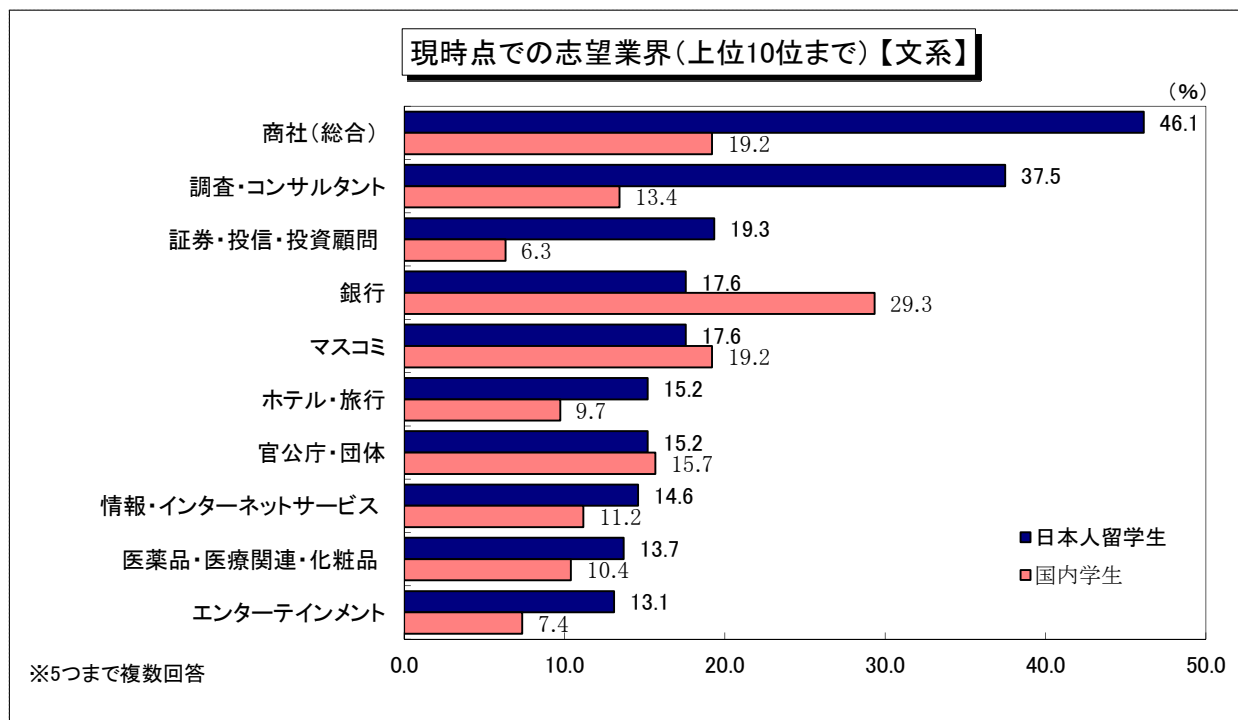
就職したい理由を聞いたところ、日本人留学生と国内学生が共通して「安定した収入を確保したい」「経済的に自立したい」という経済的な自立を主たる理由に挙げている。一方で、「自分のスキルアップやキャリア形成のため」を理由に挙げる学生は日本人留学生が 71.6%に対して国内学生は 39.8%に留まり、自身のスキル・キャリアという軸では留学生と国内学生で意識の違いが見られる。



6. 志望業界

志望する業界について、40業界から5つまで選んでもらった。日本人留学生の文系では「商社(総合)」46.1%、「調査・コンサルタント」37.5%、「証券・投信・投資顧問」19.3%と続いた。国内学生の文系は「銀行」29.3%、「商社(総合)」19.2%、「マスコミ」19.2%となった。

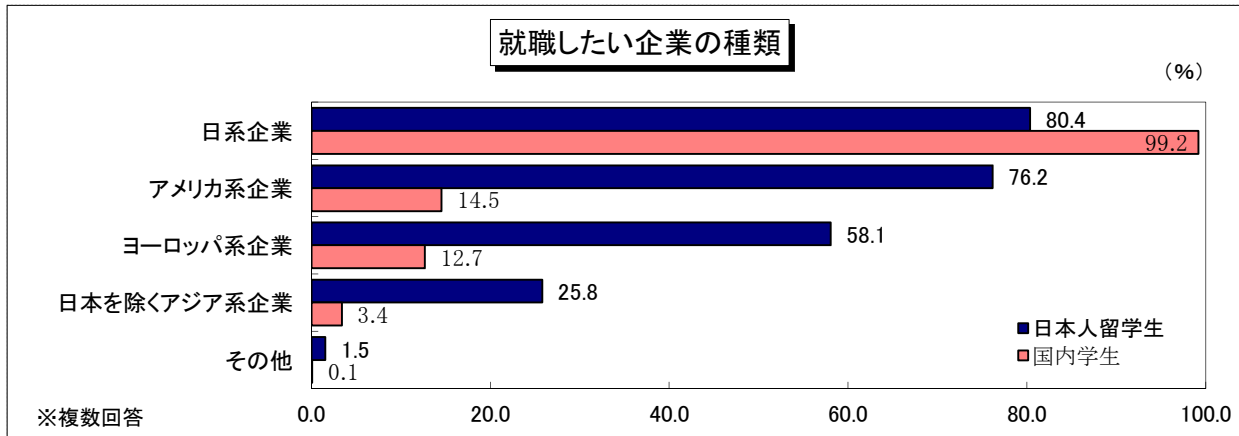
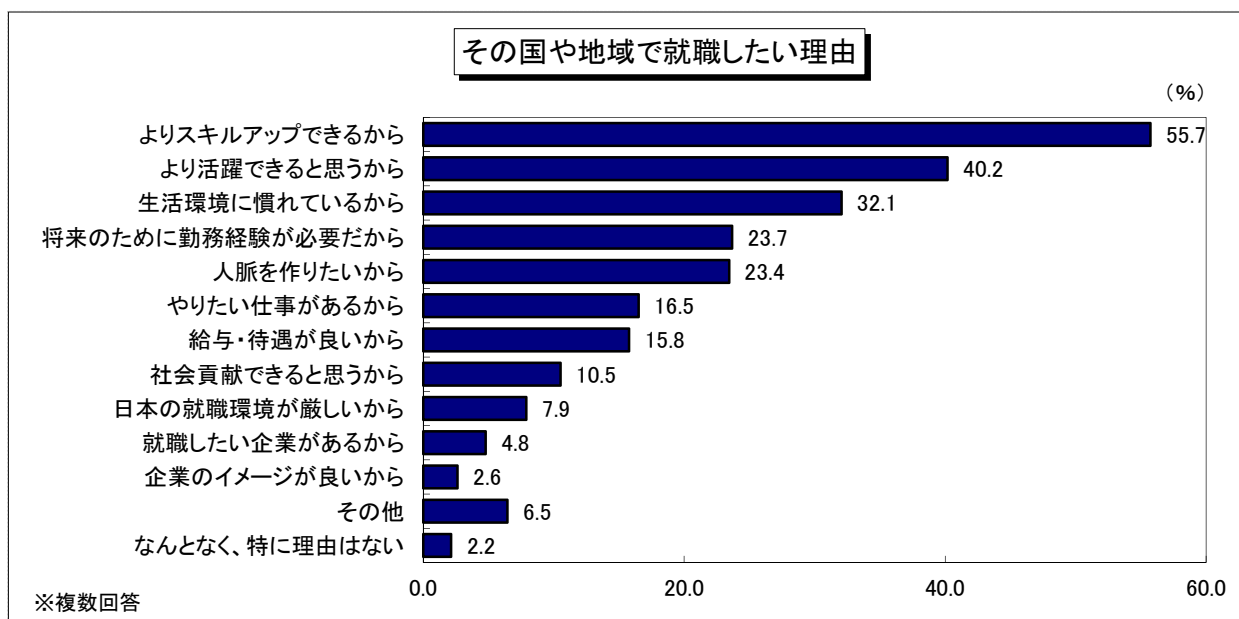
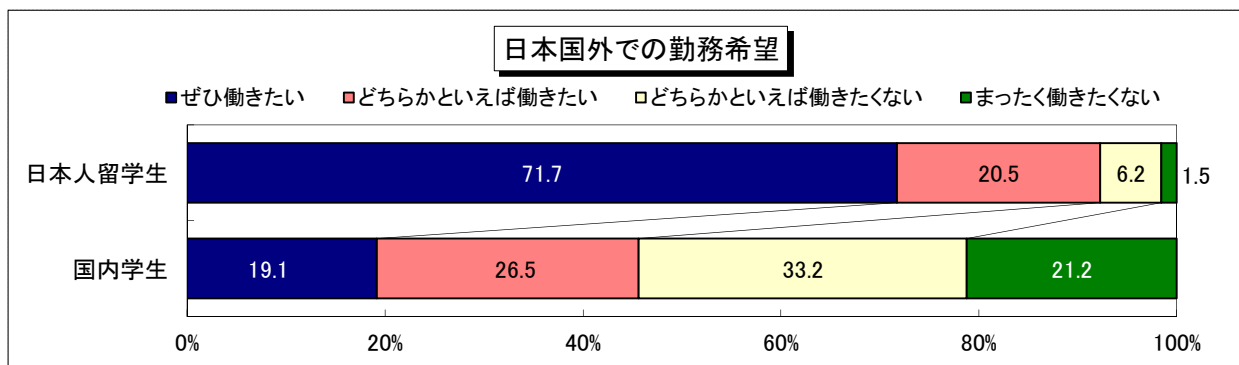
日本人留学生の理系では、「調査・コンサルタント」28.7%、「医薬品」26.4%、「情報」26.4%と続いており、国内学生は「医薬品」28.6%、「食品」28.4%、「素材・化学」27.0%となった。日本人留学生の場合、グローバルビジネスのイメージが色濃い業界へ関心が集まる結果になった。



7. 日本国外での勤務希望と就職したい企業の種類

勤務を希望する地域について聞いた。日本人留学生は日本国外で「ぜひ働きたい」が71.7%、「どちらかといえば働きたい」が20.5%と、海外での勤務を希望する学生が9割を超えた。国内学生はそれぞれ19.1%、26.5%となり、海外での勤務を希望する比率は半数未満にとどまり、意識の差が見られる結果となった。

また、就職したい企業の本社地域としては、日本人留学生は「日本を除くアジア系企業」が25.8%と昨年の18.7%から7.1ポイントも増えており、アジア企業への関心が高まり様子も見て取れる結果となった。国内学生のアジア系企業への関心は3.4%だった。

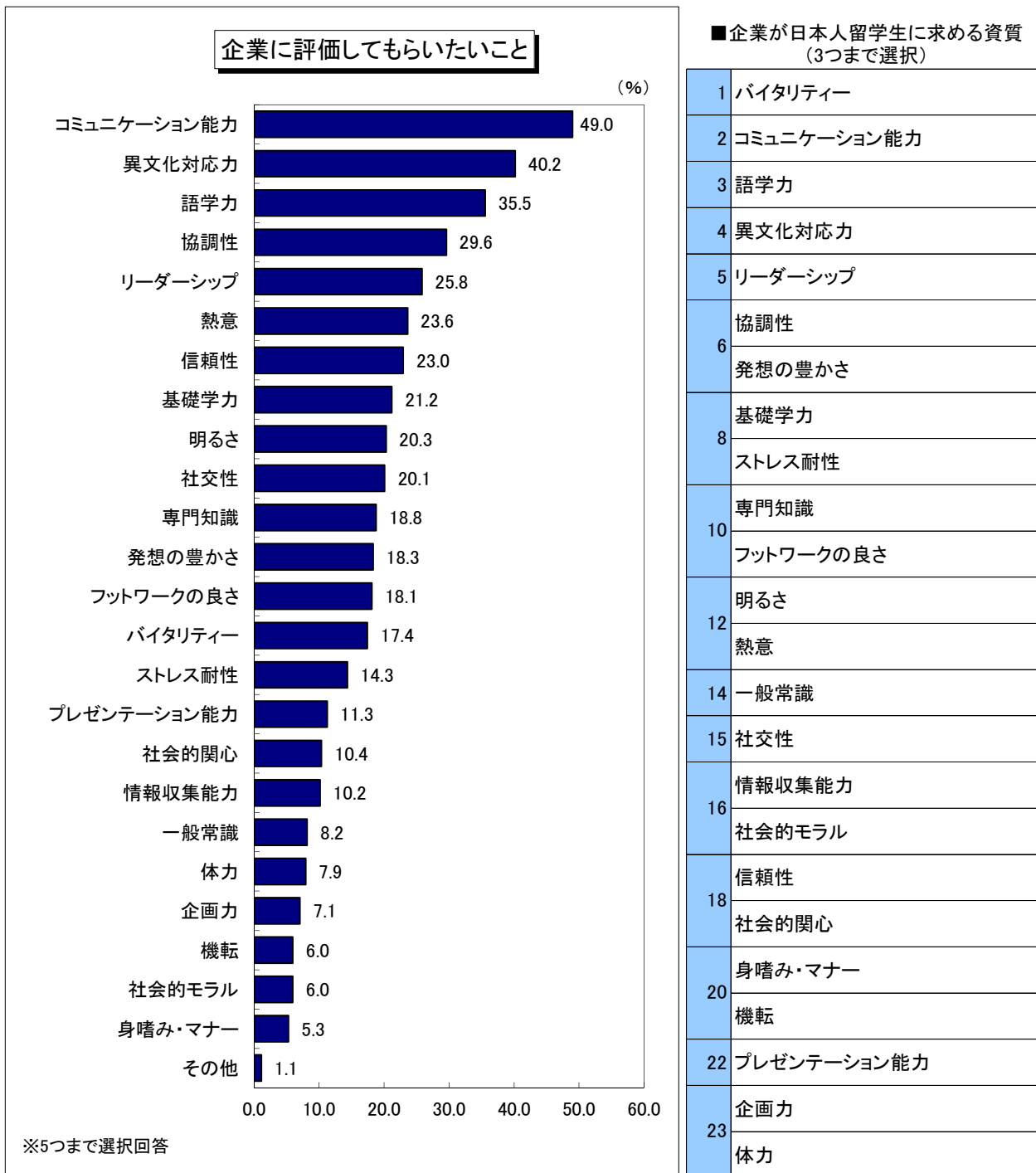


8. 企業に評価してもらいたいことと企業が求める資質

選考にあたって、日本人留学生が企業に評価してもらいたいことと、企業が日本人留学生に求める資質を対比してみた。

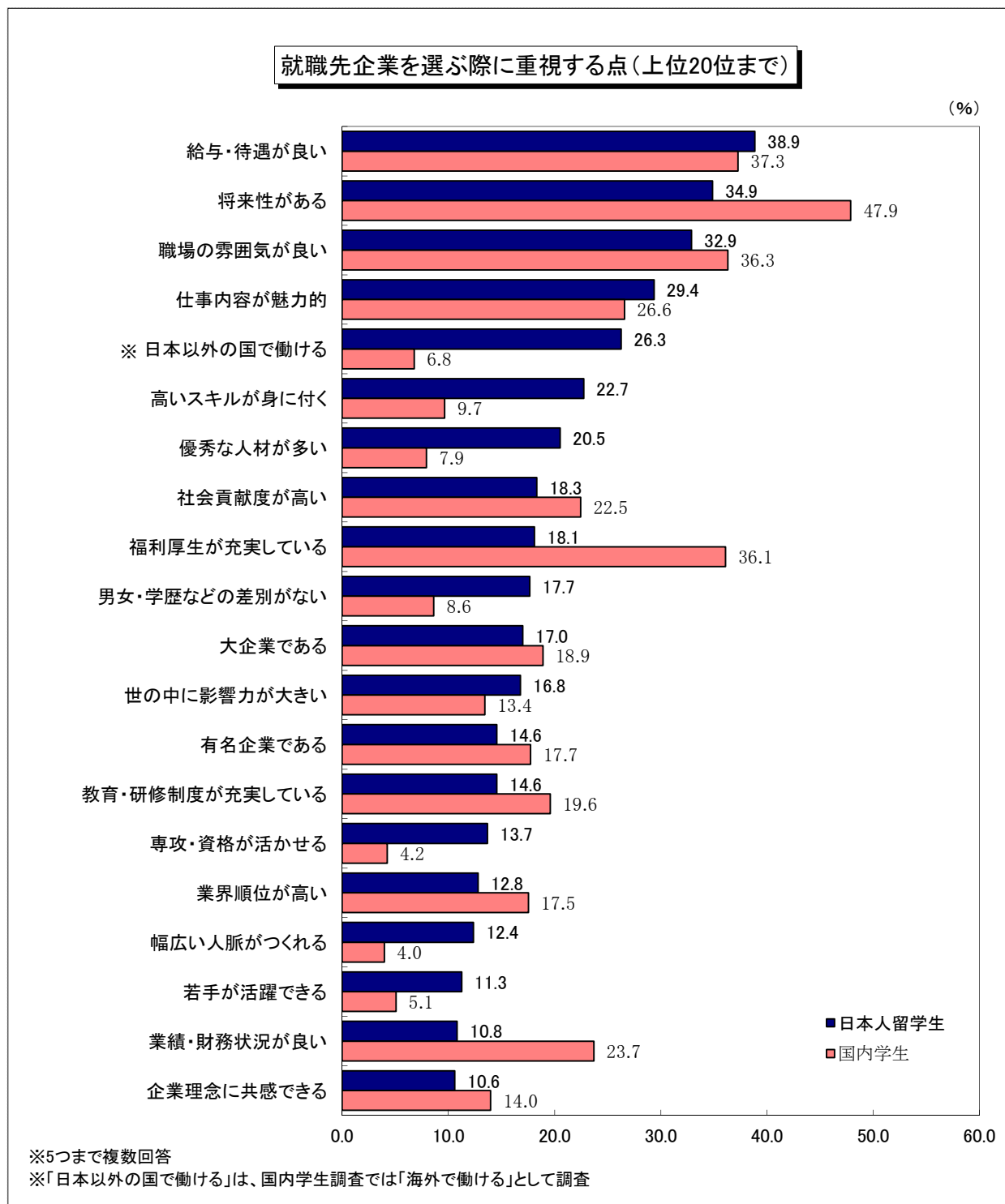
留学生が評価してもらいたいこととしては「コミュニケーション能力」49.0%、「異文化対応力」40.2%、「語学力」35.5%と、いずれも海外での留学・生活で得られるであろう要素を上位にあげた。

企業が日本人留学生に求める資質としては、「バイタリティー」「コミュニケーション能力」「語学力」が上位に来ており、こちらも留学という厳しい環境で身に付くことに期待している様が浮き彫りになっている。「バイタリティー」については、留学生では14位と低く乖離が見られるが、企業側の期待の大きさに留学生自身が気づいていない可能性がある。



9. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

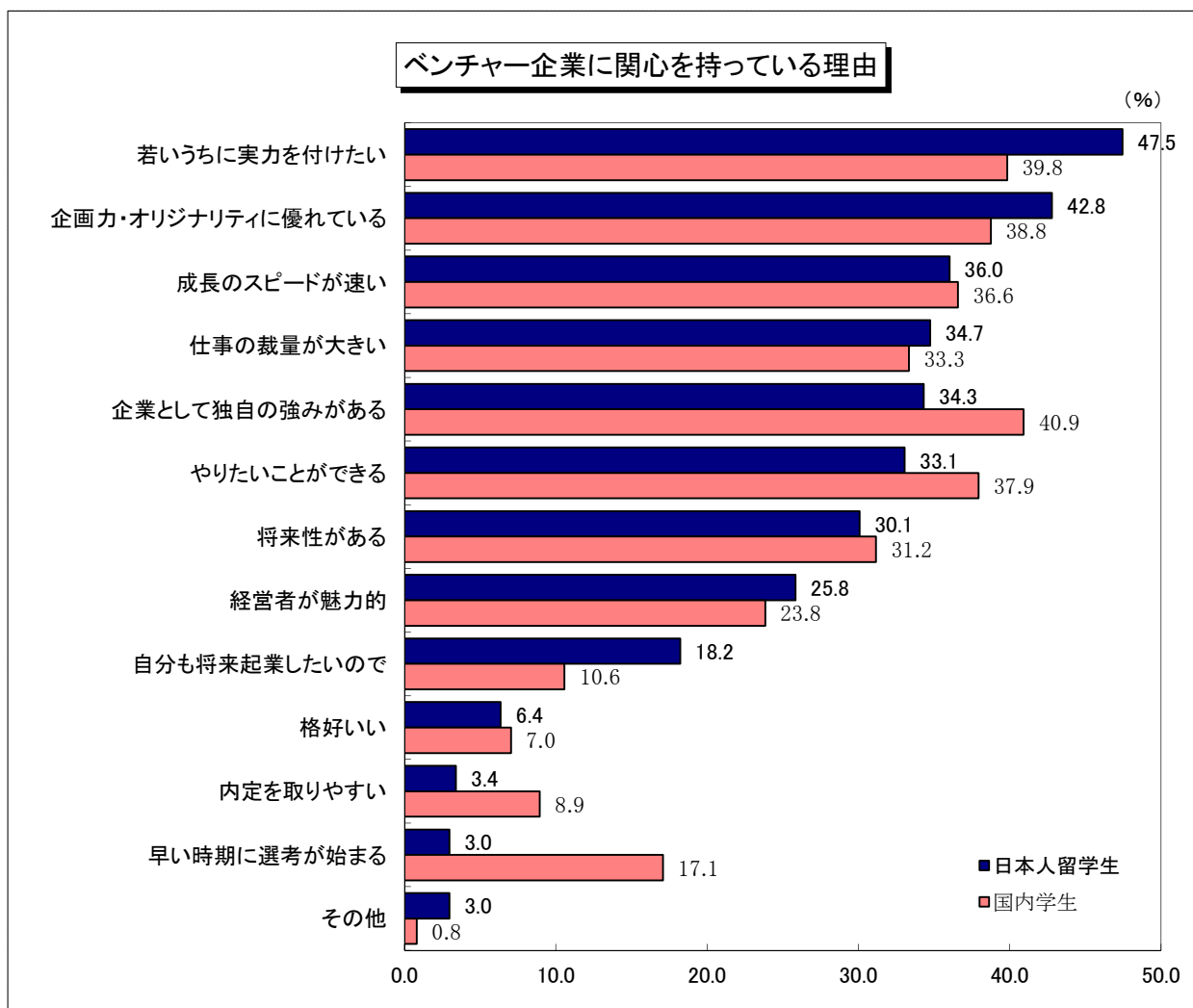
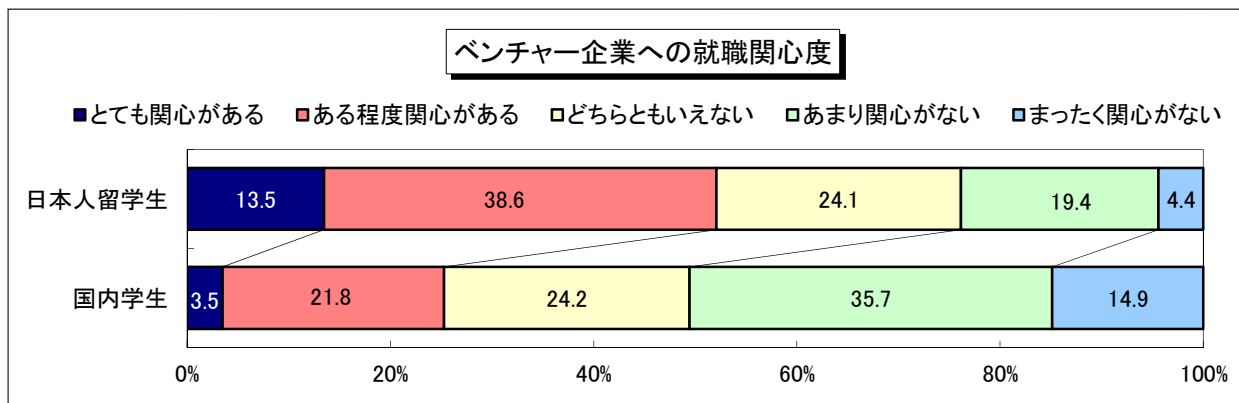
就職先企業を選ぶ際に重視する点を、留学生と国内学生とで比較してみよう。国内学生は「職場の雰囲気」「福利厚生」「業績・財務状況」といった会社組織全体に対することに興味を持っており、就職というより「就社」の側面を意識している傾向がうかがえる。これに対し、日本人留学生は「高いスキルが身に付く」「優秀な人材が多い」「専攻・資格を活かせる」といった項目で国内学生を大きく上回っており、自身の成長やスキルアップに関することに興味を示す傾向が表れている。



10. ベンチャー企業への関心

日本人留学生のベンチャー企業への就職意識を聞いた。「とても関心がある」が13.5%、「ある程度関心がある」が38.6%で、国内学生の回答がそれぞれ3.5%、21.8%であることから、日本人留学生が国内学生と比べてベンチャー企業へ関心を持っていることが浮き彫りになった。

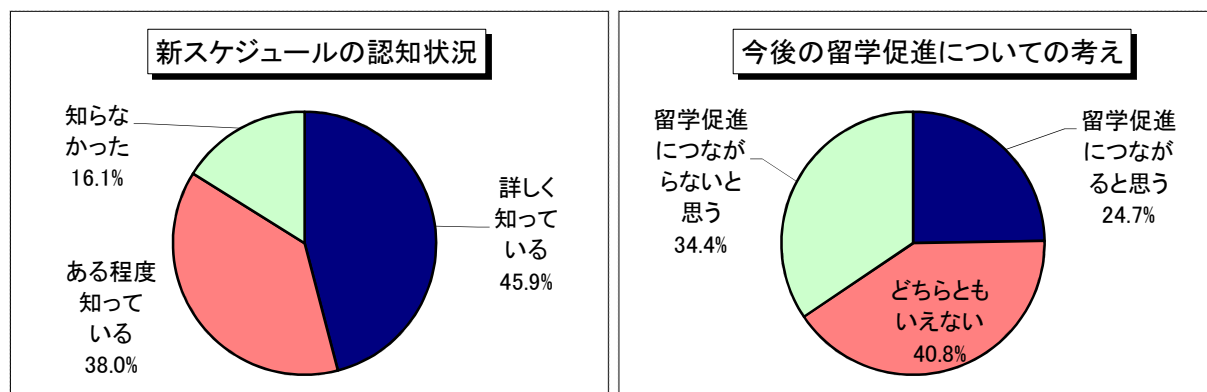
ベンチャー企業へ関心のある理由としては、「若いうちに実力を付けたい」47.5%、「企画力・オリジナリティに優れている」42.8%「成長のスピードが速い」36.0%といった項目をあげており、ベンチャー企業への就職が自分の成長につながると捉えているようだ。



11. 新スケジュールの認知度と留学促進への考え

日本国内の採用活動スケジュールが大きく繰り下がることに対する影響などを聞いた。新スケジュールの認知状況は、「詳しく知っている」が 45.9%と日本国内の採用活動に対する関心の高さを映し出す結果となった。

新スケジュールが今後の留学促進につながるかどうかという質問に対しては、「つながると思う」24.7%、「つながらないと思う」34.4%と、つながらないという意見の方が約 10 ポイント多かった。その理由としては、「選考解禁には間に合うが、会社説明会には間に合わないのが不利なのは変わらない」「留学生を採用する企業はもともと別立てで採用スケジュールが組んでいるので、留学の意思決断と直接関係しない」「留学をためらう理由は就職のことだけではない（経済的な面など）」といった意見があがった。



■ 留学促進に繋がると思う理由

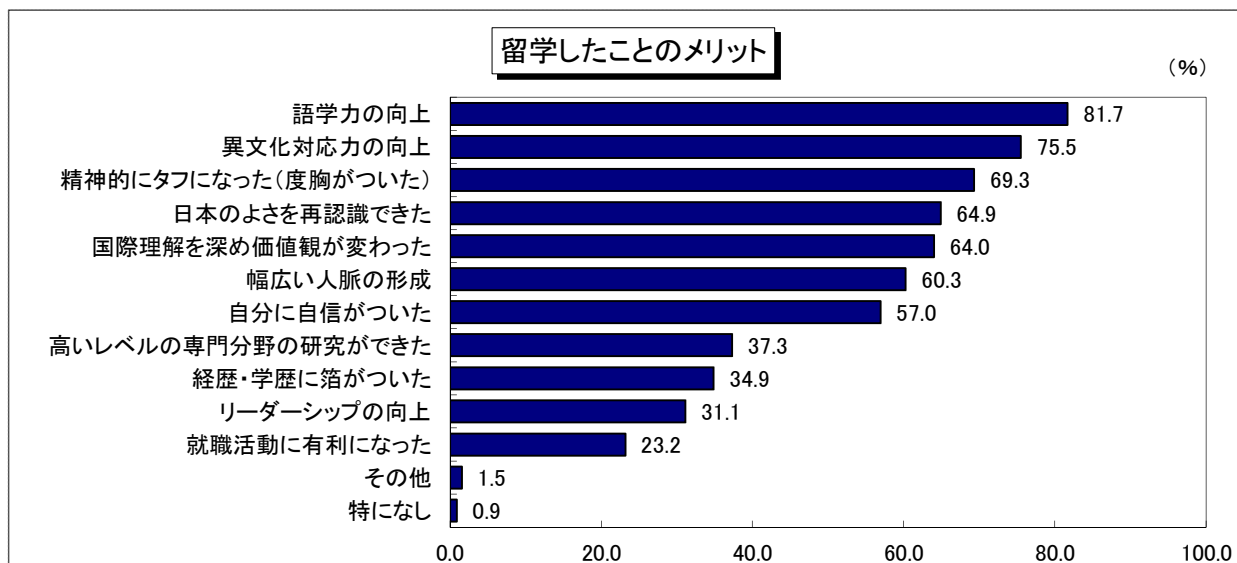
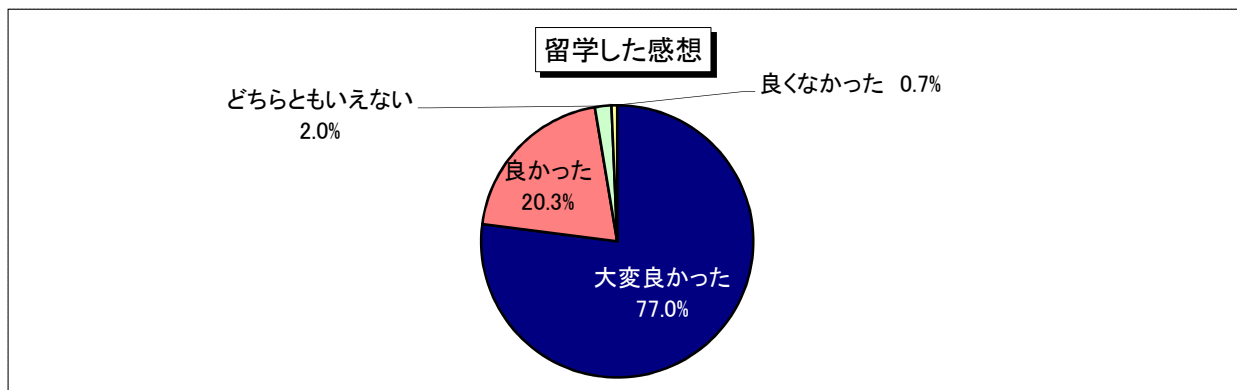
- 就活を理由に留学を思いとどまる人を聞いたことがあるため。
- 留学中に一学期休んで帰国し就職活動をする傾向が周りにあるので、卒業後の就活が有効であれば留学と日本での就職をもっと有効で簡単に考えられると思うから。
- 留学すると卒業の時期と日本の就職活動の時期がずれるので、そこがネックで留学に踏み出せない人は周りに多いので。
- 留学する際にタイミング的に就活が難しくなるというのは一つの検討要素であるため。
- 私自身、就活の時期がずれたことで、半年間の留学が経験できたため。

■ 留学促進に繋がらないと思う理由

- 北米留学の経験からですが、3月に広報活動が解禁されると、5月までは確実にアメリカにいる私たちは説明会に参加できません。説明会が参加必須の企業は多いと思います。
- 最近「留学生枠」など、留学している学生を考慮したシステムがすでにあり、キャリアフォーラム等の就活機会もあります。
- スケジュールが根本の原因で留学の数を少なくしているようには思えず、スケジュールが変更したからといって留学する人の数が増えるようには思えないため。
- 留学を妨げているのは就活の不安ではなく多くは費用と情報の少なさだと思うので。
- 就職活動が不利になるからという理由で留学を諦める人は最初から留学なんてするつもりがないのだから。

12. 留学をした感想

留学への感想を聞いた。「大変良かった」が 77.0%、「良かった」が 20.3%と、ほとんどの留学生が留学経験に対して、前向きに評価をしていた。留学したことの成果としては、「語学力の向上」が 81.7%、「異文化対応力の向上」が 75.5%、「精神的にタフになった」が 69.3%と、留学ならではの経験が自身にプラスに働いたと捉えているようだ。留学で得たこと、感想について個別にコメントを求めたところ、「自分と異なるものを受け入れられるようになった」「他国の留学生の向上心がとても高い」といった答えがあった。



■ 留学によるキャリア観への影響

- 自分のキャリアは会社に作ってもらうものではなく自分で切り開くものだと学んだ。
- 日系の大企業というおざっぱな理由により志望する会社を選ぶという基準から、業務内容や将来性といった内面を重視するようになった。
- 選択肢が広がり、どこの国に行ってもやっつけていけるバイタリティーを養いました。
- 留学したことで、海外で働くチャンスがあれば挑戦してみたいと思うようになりました。
- アメリカでは、自分の専門分野に基づくインターンを経験し、就職先も自分の専攻と関係しているものを選ぶので、私自身も就活をする際に業界を絞って見つけるようになりました。
- 「大企業」がよいという風潮にとらわれず広い視点で企業を見るようになった。
- 留学先は、周りの人たちは皆意識が高く、自分も成長することができました。